

小学校の部 最優秀賞

「8時15分 ヒロシマで生きぬいて許す心」を読んで

大阪市立長居小学校 6年  
茨木 朋世 (いばらき ともよ)

私は、「8時15分 ヒロシマで生きぬいて許す心」という本を読んで、ヒロシマに原子爆弾が落とされたのは、八月六日の8時15分だということを初めて知りました。この本を読んで、「平和」について改めて考えるととても良い機会になりました。

進示が何度も死のうとしたほど、原子爆弾はすごく怖いものなんだなと思いました。この時代に生まれてきた私は、本当に幸せなんだと改めて思いました。そして、最後のますい菓をとなりの人にあげた進示は、とても優しい人だと思いました。あんなに痛いのに人にゆずるなんて私には、絶対できない！！と思いました。進示をなぐさめ続けた進示の父の存在がとても大きかったと、本当に思います。もし進示の父がいなかったら、進示の人生（運命）は大きく変わっていたと思います。いや、もう進示の人生は終わっていたと思います。進示の父は本当にすごい人だと思いました。

この本を読んで、本当に良かったと思いました。戦後七十年というこの節目の年に、平和についてまた考えようと思いました。